



朝日子だより

吉田高校 進路指導部

H22. 2. 24 発行

社会人編 Vol. 7

吉高生のみなさんへ

社会人の視点から、仕事内容や、社会人として必要とされる資質について書きました。進路を考える際の参考になれば幸いです。

高山 和伸（平成13年度 理数科卒業）

株式会社セック

開発本部第二開発部

東京大学教養学部

基礎科学科数理科学分科卒業

仕事の内容は・・・

私の職業はプログラマーです。主にソフトウェアの設計、開発、試験をしています。現代社会では、ソフトウェアはパソコンやゲームに使われているだけではなく、洗濯機やエアコンなど多岐に渡って利用されています。日常生活ではあまり意識しませんが、私たちの生活はソフトウェアなくしては成立しません。もはやソフトウェアなしにはテレビも車も社会も動かないのです。



私の勤務している会社では、携帯電話、交通システム、人工衛星からロボットまで、幅広くソフトウェアを開発しています。その中で、私の主な担当は携帯端末のソフトウェア開発です。これまでの仕事では、携帯電話やスマートフォン向けのソフトウェアを開発しました。スマートフォンとはiPhoneをはじめとする高機能携帯電話のことです。入社当初は、自分にはスマートフォン向けのソフトウェア開発は敷居が高いのではないかと感じていました。しかし、Android（アンドロイド）向けのソフトウェア開発を通して、その印象は大きく変わりました。

Androidは無償の携帯端末向けプラットフォームで、すべてのソースコードが公開されています。Google社が中心となって開発した基礎部分のソフトウェアですが、ソースコードが公開されているため、世界中の人々が改良、更新を続けています。ソースコードがすべて公開されているだけでなく、しかも開発環境がすべて無料で提供されています。そのため、普通の



Android のマスコット
キャラクターGoodies

パソコンとインターネット環境さえあれば、みなさんもAndroid向けのソフトウェア開発が始められます。誰もが無料で開発できるAndroidは、私にとって大きな衝撃でした。休日でも自宅から世界中の技術者達が作ったソースコードを読むことができるので、参考にしています。国外では、すでに多くのAndroid搭載の携帯端末が発売されています。今後日本で発売される携帯電話の中にも、Androidを搭載したものが増えるのが確実です。興味のある方は、Android向けのソフトウェア開発に挑戦してみてください。将来必ず役に立つでしょう。



職場の様子は・・・

渋谷 谷駅から5分ほど歩いた所に会社があります。私は渋谷から2駅の所に住んでおり、家賃は若干高いですが、通勤時間が短く便利です。渋谷は人通りが多く、自分が開発に関わった携帯電話を使っている人を見かけることがあります。とても緊張しますが、同時に仕事にやりがいを感じる瞬間の一つでもあります。

朝は9時頃起床します。スーツで出勤しますが、自由な社風のためネクタイをしない日もあります。フレックスタイム制を導入しているため、私は午前10時頃に出社しています。仕事の状況次第で帰りが遅くなる日もありますが、平均すると9時間半程度の勤務時間です。

就職前と就職後の印象の差・・・

特 に印象の差は感じませんでした。ただ就職後に友人達と話をした時に、私の社会に対する認識の甘さを痛感させられたことがあります。友人の中には、違法な「サービス残業」を強いられている人がいました。会社選びの際には「サービス残業」があるとは思っていませんでした。私の勤務先には違法な「サービス残業」はありません。みなさんには就職前にできるだけ会社の情報を集めることをおすすめします。



学生と社会人との違い・・・

生 活費をすべて稼ぐことが、私にとっての学生と社会人の大きな違いでした。学生時代は両親からの仕送りがあったため、アルバイトはしましたが、自らの稼ぎだけで生活を賄っていませんでした。また、会社から給与を貰うと、金額に見合った仕事を自分のできたのかいつも考えさせられます。一方お金を使う時は、その商品が本当に自分に必要なものかつい考えてしまいます。そして、納税したお金が適性に使われているのか考えられるようになり、おのずと社会や政治への関心が高まりました。



仕 事の面では、自分と社会との関係を考える必要があります。たとえば、システムが停止して交通機関が支障をきたしたというニュースをみなさんも耳にしたことがあると思います。社会とソフトウェアの関係が密接になるほど、ソフトウェアの社会的影響も大きくなっています。自分が開発したソフトウェアの不具合により、携帯電話からの119番ができない可能性も0ではないのです。より安全でより良いソフトウェアを開発できるよう常に自分を諷める必要があります。

今役に立っていると感じる高校時代の経験・・・

高 校時代、私はあらゆる科目を「数学」とみなして勉強していました。ここでの「数学」とは「論理的思考」と同意です。私は「数学」の虜になっていたため、すべての科目を「数学」の方法論で取り組んでいました。物理はもちろんのこと、英語から国語まで「論理的思考」で対処していました。会社では常に論理的に考えて意志を伝える必要があります。そのため、高校時代に培った「論理的思考」の習慣は、今でも役に立っています。



大 学では進む学部に関わらず、「論理的思考」は必須です。理工系はもちろんのこと、経済学、言語学、哲学から法学まで「論理的思考」はあらゆる学問の基本でもあります。また、芸術にも数学は潜んでいます。美術の黄金比、音楽の平均律をはじめ、古来より数学と芸術は密接な関係があります。

「論理的思考」に加えて、英語も必須です。どの分野でも最新の情報を得るには、英語は必要でしょう。仕事をする上でも英語は必ず役に立ちます。英語は勉強をしておく損はしません。

最 後に、論理よりも感性を大切にする方は、「数学」を嗜んでみてはどうでしょう。「論理的思考」によって解明できる領域を明らかにしてこそ、感性と呼ばれる領域が初めて浮かび上がるのですから。

